

# 寺報

龍正寺

日なた 105号

真まことの心は必ず

通じぬ

我がの心は通じぬ

ことはない

日延



<平成29年 2月>

宝龍会  
護持会

# 元旦祝禱会を開催しました



お



め



で



す



と



ま



う



い



ぎ



ご

今年もよろしく  
お願いします

# — 任 職 — 一 言 — (責せにたる教え)

平成29年に入り節分を迎えましたね  
野の草や木は新しい芽を出そうとして  
います。

日蓮大聖人の御遺文「撰時抄」の中に  
「心田に  
仏種を  
うえたる」

聖人カレンダーの表号にもなっておりますね。  
お釈迦様は私たちの心を取畑にたと  
えられました。

教えを説かれ、心の取畑を耕し仏にたる  
種を植えられました。その種はすなわち法華経  
であり、日蓮大聖人が第一声をあげられた。  
「南無妙法蓮華経」です。

取畑は天の光と地の養分がなければ種  
は芽吹きません。

「真(まこと)の心は必ず通じる

我(が)の心は通じることはない」

真の心とは多くの羞分をたくわえた田火田、  
我の心とは羞分のない田火田、

私たろの合掌する婆は信心の婆、自分自身  
の心田に合掌し羞分をたくわえ、信仰の心  
を持てば光となり、豊かなみのりとなり、幸せか  
くると思います。

真の心は福を呼心こみ

我の心は慙と呼ばれ外へはきださ  
れます。

すばらしく、良い芽が、吹く事をお祈り申し  
上げます。

合掌

南無妙法蓮華経

# 「一日一生」

テレビを観ていると、1979年に千日回峰行を行った、酒井な佳哉さんの談話が身に入りました。

『一日一生』という言葉。一日が一生として考えると、その一日はとても大事であることがわかる。

「一期一会」と同じ。

明日でいいやということを行わないで今の事は今で片付けることが大事。

今という時間がとても大事であることがわかります。

今生きていること、生きてること自体が呼吸して生きている。

生きているからこそ、感謝の気持ちが起こるんじゃないかと思います。

「無情の世界」だから、いつ、何が起きても当たり前、自然の中にいるんだから。

感謝の気持ちをもう一遍、みんなが普通に関係ないと思うんじゃないかと、考えてもらう必要があるんじゃないかとお話されてました。

生きる

人生は生きること自体が修行です。

過去でも未来でもなく、今、この瞬間に目を向けて  
生きていく。焦らず、1つ1つ前向きに自分の  
行く道を考えて進んで行くことが大切だと思います。

# 好き、嫌い

ある時、テレビをつけたまま家事をしていました。  
耳に入ってきたピアノの音に家事の手が止められ  
その場で立ったまま、そのピアノの音楽を聴いていました。  
くたびれていた心が慰められるのを感じました。  
心の中に何かとても良いものが満ちてくるようでした。  
そうして聴きながら“これは初めて聴く曲じゃないぞ”  
と思い本棚へ走り探したところ楽譜を発見。

子どもの頃に勉強(練習)していたシューベルトの作品  
でした。弾けるかな、と音を出して見るとテレビで流れて  
いた音楽を自分の指で再生していきます。いいね、いいね  
と喜びながら下手クソながら楽しく弾く事が出来ました。  
人前ではとてもお聴かせできませんが、自分を楽しま  
せるのには充分でした。

昔、頑張ったごほうび？ それからピアノを習わせて  
くれた両親に感謝です。

子どもの頃は先生から与えられた課題を次々と  
取り組むだけで、好きも嫌いもなく義務的に音を  
並べていたのだと思います。音楽の良さも見つけられない  
ままただ弾いていました。

今、こんなにも時間を経てからただただ音楽の魅力  
に導かれて再びこの曲と出会えた事をとても嬉しく  
感じています。この頃は、この曲に限らず他の曲でも  
“あれ、いい曲じゃん、何で今まで気づかなかったのかな”  
と感じる事が時々あって喜んでいきます。

人生で様々に色々な経験を積みながら自然に  
身に付いた感性のお陰でしょうか。

人、それぞれ音楽といってもジャンルも沢山ありますし、好みもそれぞれだと思います。私もいつも たまたま流れていた曲に呼吸を整えてもらい落ちつく事が出来たり、気持ちどしぼんている時に ちよと勇気をもらえたり、だらけてしまいそうな時に皆すじをしゃんとしてもらったり、いつも音楽には助けられているのを感じています。このように感じられる事も幸せだと思います。

音楽以外の事からでも 小さな喜びや 笑顔になれる事を見つけられる事は幸せです。

辛い時でも そういう事を見つける努力を心がけて自分を励ましたながら 頑張りたいと思います。

お寺に 来させていただくようになって、お上人や お参りされている皆様のお陰で 以前よりは 周りの事への感謝の気持ちに気がつけるようになった気がします。その事で 気持ちも前向きになれると思います。

日常の中の好き、嫌いも 色々ありますが、嫌いの感情は出来たら少なくしたいと思います。

いつか 良さが理解出来るかも。位の感情に留めておいて 好きの花が咲く種として 育てていけたらと思います。

自分の周りに 沢山の好き、や感謝があふれる様に心がけたいです。

～ 南無妙法蓮華経 ～





今の世の中、核家族が多く、祖父母とはなかなか接点が少ないです。二人の会話を聞いても、お孫さんが「これいる？〇〇だっ！」と説明をしながら「まだ食べる？大丈夫？」と体を気づかっています。本当に素敵な姿を見せて頂き、嬉しかったです。

今の私達がいるのも、父母のお陰。父母がいるのも、そのまた上の父母（祖父母）のお陰。今の私達がいるのは、ご先祖様のお陰です。姿が見られるか、見えないうかの違いはありますが、感謝の気持ちは同じなんです。その思いを忘れず、日々手を合わせ、子ども、子孫へとこの大切さを伝えていきたいと改めて思いました。

私もいつか、誰かに「何かいいねー」と言われるような子孫との姿を見せられる時が来るといいなと思っています♡

# 一 邪気を祓う一

一月に入り大寒波にみまわれ、各地で大雪の被害に悩まされる年あけになりました。

また2月「春」まではもう少しです。でも暦は「節分」

節分はもともと立春・立夏・立秋・立冬の前日をさし、四季の分かれ目を意味していたそうです。したいに春だけに用いるようになり、現在では立春の前日との特称になっているそうです。

二十四節気が一巡して再び立春がめぐってくる大寒の末日が新暦では二月の三日～四日になるそうです。

気候が冬から春になるという事で、この日を一年の最後と考えられて、邪気を祓い幸せを願う色々な行事が行われてきたそうです。節分の夜に豆まきをして鬼も追い出す風習は「追儺」「<sup>ついな</sup>鬼遣」は宮中行事の一つでもあったそうです。

他にもこの日の夜、家の入り口に<sup>いわし</sup>鱈の頭を刺した<sup>ひやしき</sup>柵の枝を差しておく、鬼が柵の葉に刺って痛がり、鱈の悪臭にびびりして逃げていくと言われているそうです。ちなみに我が家では必ず行っています。節分に一年間の苦悩・悲しみなど全ての邪気を示さない新しい

一年を迎えましょう。

日蓮宗の久遠寺、池上本門寺をはじめとして、各寺院でも節分会を行われています。

是非とも参拝されて新春「心機一転」。寒さにも負けず、平成二十九年度に幸福を招き入れましょう。

鬼は外!! 福は内!!

< 2月 行事予定 >

2月 13日 (月) 10:00 ~ 宗祖日蓮聖人降誕会  
宗祖日蓮聖人報恩会  
釈尊涅槃会  
初大古久尊天祈願会

2月 18日 (土) 10:00 ~ 鬼子母尊神・七面大明神祈禱会

< 任職の予定 >

寺院にて法務致します。

< 2月の予定 >

2月 6日 (月)	各々の時間で	清掃、準備
?	↓	↓
12日 (日)		
2月 13日 (月)	法要後	片付け、準備
2月 14日 (火)	各々の時間で	清掃、準備
↓	↓	↓
17日 (金)		
18日 (土)	法要後	片付け、準備